

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2011年を目途に、理念・目的を具体化したアドミッションポリシーを策定する。	→アドミッションポリシー策定の有無。		A			
2. 理念・目標を社会にアピールする方策を策定する。	→学内での検討会、総合政策研究科HPの更新・利用状況、公開シンポジウム開催状況、学外説明会開催状況、受験者数・入学者数		B			

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 総合政策研究科は、その基盤である総合政策学部と同様に、「自然と人間の共生、人間と人現の共生」を基本理念として、社会の各分野で指導的役割を果たしうる高度専門的職業人の養成、ならびに研究者として十分な専門的能力を有する人材の育成を図ることを目的とする。 (説明) 2009年度に引き続いて、総合政策研究科の理念・目的に沿った活動を実行している。
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 学部のパンフレットやホームページの記載によって、学内・学外に明示している。さらに、各種のシンポジウム等を「関学総政宣言」にそって開催するほか、研究叢書等の刊行を実施して、理念・目的の周知に努めている。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない 2010年度に従来のカリキュラムについて、研究科の理念・目的にそった見直しをおこない、改訂をおこなった。2011年度は、その実施結果を踏まえて、適切に検証をおこなう予定である。
その他	現在、在籍者が定員を大幅に下回る状況が続いており、対策に迫られている。

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価
 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	上記の総合政策研究科の理念・目的にそって、リサーチ・プロジェクト等の見直しをおこない、新たな共同研究の体制を試行している。
小項目0.0.2	過年度に引き続き、リサーチ・コンソーシアムやリサーチ・フェアで大学院生の研究成果公開を進めたほか、公開シンポジウムや研究成果物等を通して、総合政策の理念の浸透に努めた。また2009年度に新設した学部サイトを活用して、総合政策研究科の理念や研究成果の公開に努めている
小項目0.0.3	従来のカリキュラムを検証した結果、2010年度に大幅なカリキュラム改訂をおこなった。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	各種の事業での成果を評価して、大学院における教育・研究体制について、時代の流れにあったものに絶えず修正していく必要がある。
小項目0.0.2	大学院での研究成果の発信に努力して、総合政策研究科の理念の浸透をさらに進める。
小項目0.0.3	大学院の新カリキュラムについて、とくに院生のキャリアデザイン等にあわせて随時、適切な改正を施していく必要があると思われる。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	総合政策学部からの進学率が低下している現状に対して、学部生に大学院の理念や目的の浸透を図るとともに、学生の新たなニーズを掘り起こす努力が必要である。
小項目0.0.2	学外の諸機関とのネットワークであるリサーチ・コンソーシアムの活動がやや低調になっており、運営体制の見直しが必要と思われる。
小項目0.0.3	2011年度から施行する新カリキュラムについては、適切なモニタリングが必要である。
その他	定員充足率が低い問題について対策が必要となっている。

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	あらためて学部教育と大学院教育の連動を図る。とくに3年修了による大学院への早期進学等を促進することで、キャリアデザインの明確化と優秀な人材の確保を実現したい。
小項目0.0.2	リサーチ・コンソーシアムの運営体制を改革して、産官学の共同研究体制を確立する。また、会員制度等を改訂することで、新たな会員の獲得をめざす。
小項目0.0.3	2011年度から実施する新カリキュラムに対しては随時、適切な修正を図り、総合政策にふさわしい大学院教育体制を確立する。
その他	上記の改善策によって充足率の向上をはかるとともに、定員の見直し等についても検討する必要がある。

◎自由記述

《点検・評価》&【次年度に向けた方策】

その他(自由記述)	高度職業人養成をめぐる様々な議論があり、大学院教育がやや迷路に入り込んでいるとも言える。一つの方向としては、①大学院修了後のキャリアデザインを明確化したカリキュラム体制の確立と、②研究者養成のための博士後期課程の整備があげられるであろう。
-----------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○研究科の理念・目的に沿ったカリキュラム改革が継続的に行われていることは評価されます。大学院修了後の進路を念頭に置いた諸施策の充実が期待されます。

【学内委員】

○総合政策研究科の理念および目標を社会に対してアピールし、周知させることは重要です。効果的な方策の明確化と実施が期待されます。

○学部を卒業して実務に入る方がいいと考える学生も多いと思います。大学院生と合同の授業など考えることが求められます。

○本項目は理念・目的の設定、周知・公表、検証についての項目です。リサーチ・コンソーシアムやカリキュラムなどは研究科の理念・目的と密接なつながりがありますが、効果が上がっている事項、改善すべき事項においてのこれらの記述は、本項目ではなく他の項目での記述が好ましいと考えます。

○目標1は「5. 学生の受け入れ」での目標です。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

総合政策研究科の理念／目標の学外へのアピールの必要性については、ご指摘の通りです。今後、研究会活動等の活発化を通じて、底上げを図っていきたく存じます。

★ また、学部と大学院の授業の共通化等については、現在進めている学部のカリキュラム改正をふまえて、適宜、進めていきたいと考えています。